

COARAの発足と経過

1. なぜ発足したか？ どうして第三セクター方式か？

大分は情報先進県？ 本当？

① ① わかってしまえば簡単「パソコン通信」！

しかし、どうやったらわかる？

~~② よそに負けるな、熊本に負けるな！~~

③ 国や県がネットワークをつくらうとしている。
(とくに、中小企業情報ネットワークシステム)

④ 通信費の問題 → いずれ九州にもできる？
↓ ↓
福岡でなくてもよいじゃないか!?

よそに負ける、熊本に負ける!

⑤ 小藩分立を二度と繰り返すまい。

→ マタイ効果

⑥ ネットワークはもうからない？

コアラの発足 (原稿No.1)

コアラが発足したのは昭和60年5月ですが、更にその半年ほど前のことです。

当時、パソコンをなんとか本業の電気工事会社の役に立てられないかと考えていた私は、会社のイメージ分析をやってみようと思い立ったのです。ところが、そのイメージ分析用のプログラムはパソコン用では造られておらず、大型計算機を使うはめになってしまったんです。

そこで、大型計算機を保有するいくつかのグループに問い合わせしたところ、県内や九州内には目的のプログラムがなく、結局は大阪にある大型計算機を、大分のわが家から電話でつないで使うという、それこそ“パソコン通信”を(大学人や大企業の技術人と違って)一地方の一般人としていち早く経験をする機会を得たのです。

そして、今でも、その時の苦勞が忘れられません。いくらやっても旨くつながらないのです。

一ヶ月、悪戦苦闘するがどうしても旨くいかない。とうとう、

「僕は大学時代はコンピュータが専門だったはずだけれど、通信っていうのは難しいんだなあ、、、」

と、落ち込んでしまったのですが、たまたま大阪に出張した折り、あるパソコン販売店の店員さんから、

「そりゃあ、お客さん、だまされたと思って、パソコンの前にあるスイッチを左から右へ動かしてごらん下さい。きっと旨くいきますよ、、、」

.....

そこで、帰って本当にだまされたと思ってやってみたら、今までの苦勞がウソみたにスーっとうまくいくのです。後でよくよく聞いてみると、なんのことはない、私が使っているパソコンは、メーカーの設計不良があってスイッチをそのようにしないと通信がうまくいかないことがある。そして、東京や大阪のプロの間ではその設計不良のことを、皆、当然のように知って使いこなしているらしいのです。

うーん、これには考え込まされてしまいました。

1. 遅れている地方は互助会が必要(まるで終戦後の日本?)

当時、国や県が一生懸命ネットワークを作ろうとしていました。

なかでも、中小企業庁の中小企業情報ネットワークシステムは、実現間近であって、東京に超大型ホストコンピュータを用意して中小企業に必要と思われる情報をデータベースにしていこう、そして、それにぶら下げる格好で、全国の県庁所在地に中型のホストコンピュータを設置して、県内の中小企業情報を蓄えていこう、という構想であって、大分県は当時、全国でもいち早くそのモデル県に指定されていたいました。

しかし、私の苦い経験を振り返った場合、東京や大阪と違ってパソコンを使いこなすための情報さえ伝わって来るのが遅い地方都市の大分で、コンピュータネットワークが出来てもスムーズに使いこなせるようになるのだろうか?と、つい心配をしてしまいます。

そこで、思い当たったのは、この中小企業ネットワークを使いこなすために、皆が気楽に尋ね・教え合う、互助会的組織でもあった方がいいのではないか?

分かっただけでとても簡単なんだけれども、どうやったら分かるかが分からない、なんてことをまず、クリアしなければ、、、。

2. 地方には地方の使いがってあって、それを東京側にわかってもらおう!

また、よくよく聞いてみると、中小企業のためのネットワークではあるが、地方に住む中小企業ではなかなか取っつきにくいような状況もあるようで、例えば、東京の本部の方針で、朝8時から夕方5時までの使用時間制限があったりするわけですが、地方では、夕方5時を過ぎてやっと机に落ちついて座ることができる中小企業や零細企業が多いのじ

やぁないかしら?、と、思ったり、利用者側は、ホストコンピュータと同一メーカーの150万円近くもするパソコンを専用には買わなければならない、と聞くと、これではウチの会社は買えないな、と、考え込んでしまいます。

また、大分独自のコーナーもなかなか作りにくいようだ、等と聞くと、東京や大都市では使えても、地方都市では使えない、なんていうことになりはしないか?と、つつい心配してしまいます。

そこで、東京で作られたものを単純にあてがわれるのではなく、いち早くこちらの希望や心配を東京の本部に言ってみたらどうだろうか?

「地方で使うことを前提に作るならば、こんな点をよく考えといて下さい」

または、

「地方でコンピュータネットワークを使ったらこんな使い方になりましたヨ」

と、中央へ逆提案できるように、今のうちから研究でもやっていたほうがいいのか、、、、。

こういった思いが交差するのです。

3. マタイ効果は地方の脅威

そして、日本より5年は進んでいると言われてた当時のアメリカの状況を調べてみると、もっといろいろと考えさせられてしまいました。

こういった、データベース的な色彩の濃いニューメディアには、『マタイ効果』と呼ばれる面白い傾向があるのです。

つまり、富める者は益々富み、奪われる者はますます奪われていくという、聖書のマタイ伝から取られたこの言葉、面白い情報が沢山有るところには利用者が沢山集まってくるし、人が集まれば、その人達に知って欲しい、と、益々情報が集まってくる、、、反対に、情報が少ないと人も集まらず、情報も集積されず、さびれていってしまう。

この雪ダルマのような効果を是非ともイイ方向に回転させなければならないこと。

また、そのために、同じようなネットワークを乱立させて、小藩分立的な足の引っ張りあいを、情報基盤が充分整っていない狭い大分の中でやってはいけないこと。

どの資本からも、どの団体からも等距離にあって、皆が同じ立場で参加できる中立的なネットワークを用意して、県民皆が自由に利用できる社会基盤的なネットワークがあることが望ましいこと、などが、アメリカの状況から読み取れてくるのです。

4. 熊本に負けるな!、参勤交代を繰り返すな!?

そして、何よりも気になったことは、そういうマタイ効果と呼ばれる集積効果があるならば、お隣の熊本に負けてはいけない、、、大分が“一村一品運動”を始めると、すかさず“日本一運動”を仕掛けてくる熊本に、今後の10年・50年を左右する情報分野で遅れをとってしまっはいけない、、、。

今までは、郵政省にしろ、建設省にしろ、国の九州統括事務局は総て熊本や福岡が中心であって、我々大分人は参勤交代よろしく出かけざるを得なかったわけですが、先進のアメリカをみると、これからの情報化社会はそれにこだわらなくてよいようです。

40万人以上が利用している世界最大のコンピュータネットワークの例をみても、金融的にも政治的にも物理的にも世界の中心であるニューヨークやワシントンに本拠を置いているのではなくて、オハイオ州のコロンバスという一地方都市に拠点を置いている。

つまり、情報社会は、通信回線があれば、どこからでも利用ができるということが実証されているようで、それならば、九州内では福岡や熊本よりも大分の方が、地理的に瀬戸内地域をも含めて、おへそのように真ん中であるということで、立地条件はとてもイイ。

なにかと言われる“物理的な一点集中”に対する新しいバランスになるかもしれない。

5. しかし、採算が取れないことも事実、では、中央民活地方官活の第三セクターで、

利益をそう追求しなくてもよい、また、マタイ効果を考えて、どこからでも中立的であるような、そういった運営体を模索して、“(社)大分県地域経済情報センター”に相談、即座に発足へ。

こういった思いを募らせた素人集団が第三セクターの機関である大分県地域経済情報センターに集まって、おっかなびっくりながらスタートした、大分パソコン通信アマチュア研究協会(略称コアラ)、今はいろんなテーマを設けて、楽しいコミュニケーションを続けています。

同年1月16日、大分県民会館にてCOARA発起システムとして
大分パソコン通信アマチュア研究協会が発足

同年2月16日、会員数100名突破

同年2月28日、協会にて平成初年新春大会開催

同年4月より、大分県の51年産県産品スタート

同年7月28日、会員数200名突破

同年8月1日、各所のパソコンを「日本産県産品専用システム」として設置スタート

同年11月3日、会員数300名突破

同年12月、COARAと関係の考え方で「お台場(コアラネット協会)」、
熊鷹津松山市(TOWNネット)ネットサービス開始

昭和62年1月28日、会員数400名突破

同年4月24日、会員数500名突破

同年7月21日、新設・更新版・日本産県産品専用システムCOARAによる県産品
品名登録制度で、専用ネットワークとして全国展開

同年8月10日、会員数600名突破

同年10月28日、2851社のネットワーククラブフォーラム全国大会開催
(通称、大分県産品展)

同年11月4日、会員数700名突破

昭和63年1月9日、イブニングのシェフリーダーハウ外環大使、名誉会員として入会

同年、11月18日現在、会員数約740

(経過)

30⁺ 昭和60年5月16日、大分県地域経済情報センターを事務局に発足
会長を後藤国利(白杵製薬会長、県会議員)で。
NTTさんや県の電算課長の応援を得て、、、

同年6月16日、パソコンをホストコンピュータとして自動応答の実験システムを試動。

約9ヶ月 同年9月3日、ハードディスクを付加し(待望の)24時間運転を開始。

昭和61年1月、平松知事を特別名誉会員に迎える。

同年1月10日、NTT宮崎支社にてCOARAの兄弟システムとして
フェニックスシステムが稼働開始。

同年2月10日、会員数100名を突破。

中小企業(ビジネス)利用
→一般市民の"生活"利用へ!

5ヶ月10日 同年2月13日、例会にて平松知事が名誉会長に就任。
名誉会長就任お一声!

同年4月より、大分県の61年度事業がスタート
「地域高度情報通信基盤開発事業」

同年7月20日、会員数200名を突破。

2.5ヶ月 同年8月1日、ホストのシステムを「日本語電子会議システム」として新規スタート。
回線数を4回線に増設。
パケット通信(DDX)サポート開始。

同年11月3日 会員数300名突破。

2ヶ月25日 同年12月 COARAと同様の考え方で、仙台市(コミネット仙台)、
愛媛県松山市(TOWNタウン)がサービス開始。

2ヶ月25日 昭和62年1月28日、会員数400名突破

同年4月24日 会員数500名突破

2周年記念パーティ有

3ヶ月15日 同年7月21日 新型・最新鋭・日本語電子会議システムCOARA-3稼働開始
回線数8回線で、地域ネットワークとしては国内最大級。

同年8月10日 会員数600名突破

2ヶ月25日 同年10月28, 29日 秋のネットワーキングフォーラム全国大会の開催
(通産、大分県他後援)

別紙参照

同年11月4日 会員数700名突破

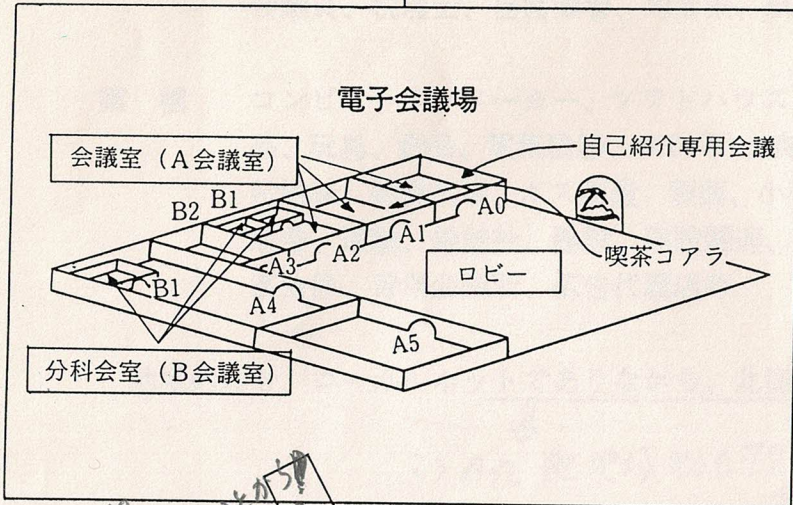
昭和63年1月9日 イギリスのジェフリー・ハウ外務大臣 名誉会員として入会

同年 1月18日現在、会員数約740名。

コアラの構成

<<トップメニュー>>

1. 電子会議
2. 電子メール
3. パスワードの変更



電子メール

パスワードの変更
(センターサービス)

将来的に...

情報サービス
(データベース)

フジテレビの
先が互いを知りあうことが!

19才のオレの20

議長はプロの限るし、
電子会議の議長を一年(63)結果として
その方の初知りにあつた!

... 会議の種類 ...

- A000B000 / 自己紹介会議
- A010B000 / 会議運営・テーマ提案・おしらせ
- A010B010 / COARA-3の使い方
- A010B020 / アルバムコアラ編集会議
- A102B000 / 喫茶COARA
- A102B005 / 英恵のお弁当批評 *日常的な会議*
- A102B007 / 溝辺誠の読書日記
- A106B000 / FM私書箱 (NHK)
- A110B000 / 子育て
- A110B010 / 独身貴 (奇) 族
- A120B000 / 自由工房
- A122B000 / サンデーおおいだ (テレビ)
- A200B000 / 豊の国づくり、地域づくり会議
- A200B010 / 広報おおいだ (大分県より)
- A200B012 / 県議会コーナー
- A200B014 / 三重町のはなし
- A200B016 / 別府湯の町ばなし
- A200B018 / 臼杵、津久見、佐伯... 県南です
- A200B020 / リファレンス大分市
- A220B000 / 博多から九州あっちこっち世界まで

- A250B000 / INTERNATIONAL
- A310B000 / よってみちよくれ、売り買い情報
- A320B000 / 株です、Mr. Abbeyの投資研究
- A400B000 / 何でもサイエンス
- A410B000 / さかな・魚 *議長はプロ!*
- A430B000 / コンピュータ
- A430B010 / 通信に関して
- A430B012 / X1ターボ
- A430B020 / プログラム (アスキー形式)
- A430B024 / PC WORLD NETS
- A500B000 / スタジオCOARA (ネットワークと社会)
- A500B010 / 私のパソコン通信
- A050B000 / ネットワーク・コミュニティ
- A050B010 / 新しい地域コミュニティの理念

全国大会、大分大会
シンポジウム用電子会議!!

身体障害者用の"サンコミュニティ"も有。

上記のお客を27857、各人がきつたに井戸端会議にしてる。
こんなモニターで行なってるか... といふと

ゆるメンバーがといて...

(メンバー構成)

年齢 14歳 (中学三年生) から84歳まで幅広いが、中心は30歳代

職種 技術者、医者、会社経営者、アナウンサー、コンサルタント、弁護士、ライター、新聞記者、陶芸家、画家、公務員、教員、大学教授、薬剤師、県会議員、税理士、自営業者、司会業、航空管制官、会社員、OL、主婦等

業種 コンピューターメーカー、ソフトハウス、テレビ会社、新聞社、卸し業(薬品、玩具、食品、電気機器、衣料等)、食品製造、酒類製造、機械加工、精密機械、結婚式場、ガス製造、製薬、小売(花、本、石油、衣料等)、銀行、航空、運輸、雑誌社、建設、建設関連、飲食、貴金属回収、通信、郵便、自治体、青年会議所、広告代理店等

地域的にも、ローカルネットでありながら、北海道から沖縄、海外まで。

↓
つまり他地域からもアクセス (2833) になると、50%と
その時に電話代に困って申し込めない。

今後の課題

① 電話料金、

② ホスト局の採算性

③ どのVANを選ぶか

(VANによってプロトコルが決ってしまうところがある)

JUST-PCをどうする? → 世界に広がるのか?

④ 地域ネット (ローカルネット) として、如何に特色をもちつづけるか?

⑤ 地域ネット同士を結びつける技術と運営方法は?

⑥ 地方であっても、東京を経由せずとも世界に窓を持てるのだが、**情報輸入国から輸出国へ!**

KDDX ノウハウは無し

具体的にどう展開していくか? メーカーも、そこまでは考えておくれ!

⑦ 東京からの全国ネット (商業ネット、官ネット、...) とどう共存していくか?

⑧ キャップテンとの共存共栄方法は?

⑨ 大人数コミュニケーションのロジック **電子会議の概念を!**

ローカルネットの構築は 地域VAN

しかし、最終的には、優秀なネットワーカーを何人集め得るか!?

⑩ 科学技術庁が、研究交流ネットワークをコア上に備設する!

→ 地域ネット (1273) がある。そこには 研究技術を論ずる

コーナーもある。喋りもある電子ネットワーク!

(都府県内
自治体交流ネット)

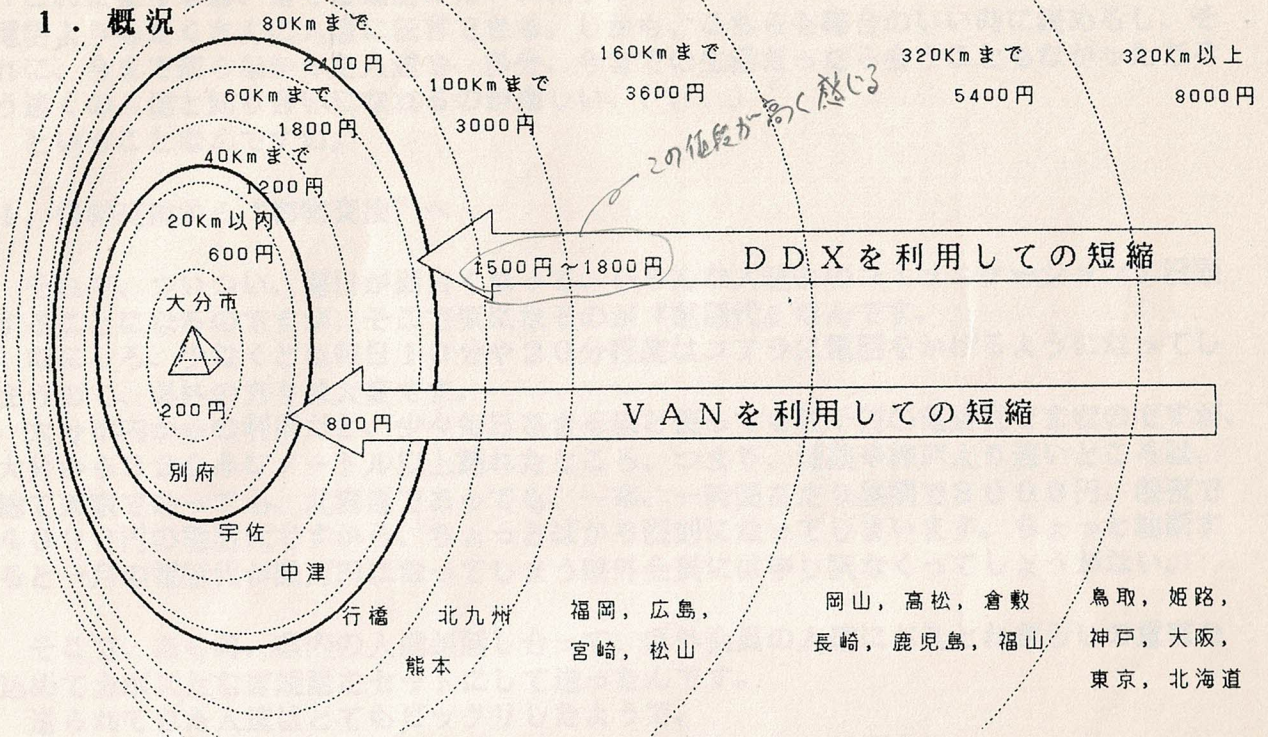
① 情報交換
↓
② 物も動
↓
③ 交流が
↓
④ 更には人
“オンライン”
大分にい
人が住み
む

$$\left(\frac{\text{毎日10分} \times 30 \text{日}}{60 \text{分}} = 5 \text{回/日} \right) \times 24 \text{日} = 20.000 \text{回/月}$$

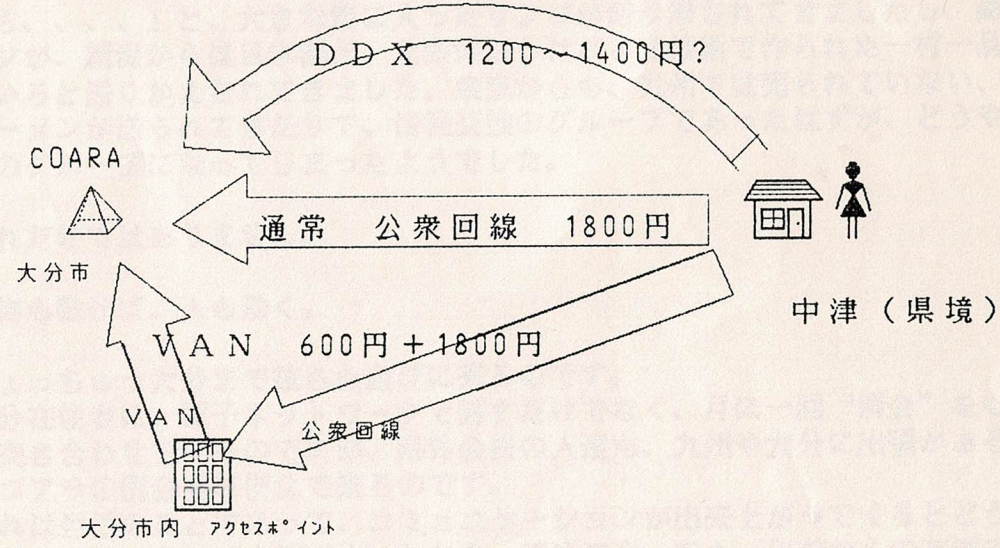
88.1.19

通信料金について (一時間単位の比較)

1. 概況



2. 県境は、ネットワークコミュニティの辺境



3. キャップテンも同じ、コンピュータ通信!

都内

200円

キャップテン料金(88/2改正後)

全国一律 600円 夜間360円

コミュニケーションってとても凄い力を持っているなあ、とあらためて考えさせられるんです。

コアラが始まって、皆さんが思ったことは、

「これはイイなあ、留守番電話みたいに相手がいなくてもいいし、手紙よりも早いし、電話よりもたくさんの人達に伝言できる。しかも、こちら都合のいい時に読めるし、それに、今まで知らなかった人達や、多分、今までの生活だったら会うこともなかっただろう遠くの人達と知り合いになれるのが楽しい、、、」

ということなんですね。

1. 情報交換から“物物交換”へ

それで、ついつい、毎日が面白くなって、いろんな人達とのコミュニケーションに没頭することになるのですが、そこで気になるのが『電話代』なんです。

なにしろ、少なくとも毎日10分や20分程度はコアラに電話をかけるようになってしまうので、県外の方々は大変です。

大分市内からの利用だと、少々毎日あきるほど使っても数千円の電話代ですむのですが、大分から320キロメートル以上離れたところ、つまり、姫路や神戸より遠いところは、総て東京であっても、北海道であっても、一率、一時間あたり昼間で8000円、深夜で4000円の電話代ですから、ちょっとばかり深刻になってしまいます。ちょっと油断すると一月の電話代が数万円になってしまう県外会員には申し訳なくなってしょうがない。

そこで、ある時、県内の人達が話し合っ、県外会員の人達にお礼とねぎらいの意味を込めてカボスとむぎ焼酎をセットにして送ったんです。

送られてきた人達はとてもビックリしたようで、

「やや、ニューメディアの中を一村一品が流れてきた。これは面白い」

ということになったのですが、彼らも負けてはいません。

「しかし、一村一品って大分だけじゃあないよ、盛岡にはとても美味しいリンゴがありますから、、、」と、大きな箱に入ったリンゴが送り帰されてきましたし、高地からはボンカンが、新潟からは日本酒が、北海道からはバイオ技術で作られた一村一品が、、、と、いろいろと送りかえされてきました。東京からも、九州では売られていない、激辛のカップラーメンが送られてきたり、情報交換のグループであったはずが、どうやら『物物交換』のグループになってしまったようでした。

それだけではありません。

2. 物も動けば、人も動く。

しょっちゅう大分まで彼らも遊びに来るのです。

大分在住者は、電子ネットワークで話すだけでなく、月に一回“例会”をもって実際に顔を突き合わせているのですが、県外会員の人達も、九州や大分に出張がある時は、なるべくコアラの例会日に併せて来るのです。

これは当然のことであって、コミュニケーションが出来上がってくるとどうしても会いたくなってしまふのは人情です。しかも、初めて会っても、以前からの友達であったかのように感じさせてくれるコアラの威力には、本当に驚いてしまいますし、お互い同士が分かりあっているとついつい話はずむし、楽しくってしょうがない。一度来た人はなんとかもう一度、という気になってしまうようで、我々大分側も県外に気軽に出て行って、彼らのところに、おじゃましてしまいます。

こういった状態がつづくとうなるか？

3. 交流から、結合へ!

そうです、単なる人と人の交流から、人間同士の“結合”である、“結婚”へと発展して行ったのです。

ちょうど一年ほど前に、コアラ名誉会長である平松知事が、「『いまに、コアラでデート』という言葉が合言葉になって、結婚が起るに違いない」と予言をしていたのですが、続けて二組の結婚が起ってしまいました。

一組は、なんと、この放送をしているNHKのアナウンサーで、S君。北海道出身のS君は、北海道でお見合いした彼女に一目惚れしてしまったのはいいのですが、遠く離れた大分から、どうやったら彼女にアタックできるのか悩んでしまいました。そこで、彼が手をうったことは、先ず彼女にコアラに入会してもらうこと。そして、手紙では時間が掛かりすぎていららすこの手の気持ちを、毎日電子メールという素早い手段で届け続けた結果、見事“婚約”となり、昨年の9月に無事結婚となったのでありました。

もう一組は、大分に本社があって、その東京支店に勤務する大分出身のF君。毎日コアラするなかに、とても素敵で快活な文章で皆と会話するY子さんが気になってしかたがありません。どんな女性なのだろうか?、ぜひとも会ってみたい、とつもの気持ちを抑えきれず、盆暮れの里帰りのチャンスに会いに行くことから始めました。そして、東京に帰ってからは、毎日ラブレターを電子メールで届け初め、時には思いが溢れて、公開の電子会議の中でも気持ちを書きつづってしまい、ついに彼女もこれにはダウン。昨年の12月にコアラの後藤国利会長の仲人で結婚式を挙げました。

一組は、北海道から大分へお嫁さんと呼び寄せ、もう一組は、東京へ嫁がせたコミュニケーションの威力にはびっくりしてしまいます。

しかし、これで終わったわけではありません。

4. さらに、人を引き寄せる力となって、“オンラインUターン族”を創り出す!

こういった状況を、県外から見ている人達にとっては、「大分って面白いなあ。いつも何かあってるみたい」と、感じさせてしまい、「どうせ住むならば、大分がいいなあ」とつぶやかせ始めたのです。

転勤時期が来たある会員は、希望地に大分を指定してみたり、東京に出ていた大分出身者も、「大分に職があれば帰りたい」と言い出すなど、人を引き寄せ始めたのです。そして、ある東京の高名な大学教授は、「地価の高い東京で退官後に住むことはとても難しいので、大分に住みたい。ひいては、いい土地を紹介して欲しい」と問い合わせをして下さいました。

これこそ、地域の活性化にほかなりません。

これこそ、コアラの根本の、“地域をよくしたい、大分をなんとかしたい”、という思いを実現するものは無いはずで、人が好んで住み始めることこそ、むらおこしの原点であるはずです。

コアラは、ニューメディアを使った、情報化社会の“むらおこし”と言われるゆえんであって、東京一点集中に対する地方の武器にもなってきたのです。

コアラという電子ネットワークがもたらした、コミュニケーションの力に恐れ入る今日この頃であります。

三年生) から84歳まで幅広いが、中心は30歳代

者、会社経営者、アナウンサー、コンサルタント、弁護士、ラ
聞記者、陶芸家、画家、公務員、教員、大学教授、薬剤師、県
理士、自営業者、司会業、航空管制官、会社員、OL、主婦等

ターメーカー、ソフトハウス、テレビ会社、新聞社、卸し業(薬
食品、電気機器、衣料等)、食品製造、酒類製造、機械加工、精
番式場、ガス製造、製薬、小売(花、本、石油、衣料等)、銀行、
雑誌社、建設、建設関連、飲食、貴金属回収、通信、郵便、
年会議所、広告代理店等

レネットでありながら、北海道から沖縄、海外まで。

↓
このように他地域からもアクセス(2833)よ)になると、50%と
そのために電話代に困り申し込める。

性

ぶか
ってプロトコルが決ってしまうところがある)
PCをどうする? → 世界に広がるのか?

加ネット)として、如何に特色をもちつづけるか?

を結びつける技術と運営方法は?

、東京を經由せずとも世界に窓を持てるのだが、情報輸入国から輸出国へ!
KDDIノウハウは無し

どう展開していくか? メーカーも、そこまでは考えておけ!

ネット(商業ネット、官ネット...)とどう共存していくか?

の共存共栄方法は?

ケーションのロジック 電子会議の概念を!
パソコンネットワークが提案する 地域VAN

、優秀なネットワークを何人集め得るか!?

片か、研究交流ネットワークをコア上に備設する!
→ 地域ネット(IL73)がある、そこには 研究技術を論ずる
コーナーがあれば、喋り場もある電子ネットワーク!

① 情報交換 → 物の交換へ
↓
② 物が動けば人も動く
↓
③ 交流から、結合へ
↓
④ 更には人を引き寄せるネット
"オンラインウーラン強!!"
大分に住みたい!
人が住みたくなる町づくり
↑
まちあこし!

その他の関連資料は
全国大会討議資料 巻末の
『COARAの解析』を参照せよ